

一人暮らしと実家暮らしによる 大学生の防災意識の違い

西村 蒼

日本は、その地理的位置や地形、気候など様々な要因によって多くの自然災害が発生する国である。そのため日本における防災は非常に重要であるが、実際のところ災害への備えは不十分である。また、大学生の防災意識が一般市民に比べて低いことと、大学生の中でも一人暮らしをしている対象の防災意識が低いことが報告されている。

本研究では、大学生が住居形態によって防災意識に違いが出る理由を明らかにすることと、今後防災意識を高めるために必要な要素を検討することを目的に大学生を対象としたアンケート調査を行った。

調査の結果、生活を共にする家族の有無が災害対策の程度に影響を与えること、一人暮らし時の転居に伴って親しく接する人の人数が減少し防災意識が変化することがわかった。そして、調査対象者全体として主体的に防災に取り組む人が少なく、気軽に参加できる取り組みや防災に興味や関心を持つことのできるイベント、行事の開催といった防災に触れる機会を多く用意する必要があることが明らかになった。